

【背景説明】

日本学生オリエンテーリング連盟の正式発足＝春インカレの2日間競技＝日光地区での学連の本格的テレイン開発

これら3事項は、同時に(1984年)起こっている

この年度に日光地区で四つのテレインが新たに開発された。

「千本木行川」 秋に学連発足記念大会＞インカレモデル、数年後「行川」、今は「日光例幣使街道」

「今市青少年スポーツセンター」 関東学連の現役学生による開発、当時あった関東学連リレーで使用、本番では第二トレコース

その後長らく使用されず、「日光根室」で7人リレー・・・学連の地図ではなくなった。施設内使用の面倒さもあって大会後公開していない。

「七里」 インカレ本番リレーテレイン、その後の「日光口磐裂の霊水」「日光口(日光和泉)として常時使用するテレイン

ここでのロング(踏切を渡って大谷川公園まで延ばしてゴールする)では、アクロバチックなレイアウトを実現

したが、会場が問題で大きな大会を避けて、合宿などトレーニングとしての用途の方が今は強い。

会場に小学校はあるが、小規模校でトイレを壊したことがある。

ゴミ処理場の新設の問題で地元問題も発生し、立入が止められたエリアもある。沈静化後、ここはロング再競技

の際に地図調査が新たにされた。またロング開催の際は一旦ジェネシスマッピング社に著作権が移ってしまったが、

1年前に買い戻している。最もトレーニングに使いよいテレインで、販売的には最も優秀なドル箱テレインであることには相違ない

といことで、ここで公平性を確保するには、かなりの期間のクローズが必要で、販売実績、提供できるトレーニング

内容からいって閉鎖することはあまり現実的な選択では今はない。前回幹事会で成立した改訂作業

のように常時現地変化を地図に反映していながら、地元とも良好な関係を維持しつつ、ずっと着実な売上をもたらす

のが良いように思う

「毘沙門山」 インカレ本番、クラシック競技(当時の呼び名)使用テレイン、中央の2車線道路を挟んで、今の「不動(南)」と「毘沙門山」

部分から構成される。「日光所野」や「日光霧降」は後のインカレで新規開発されたテレイン。

「毘沙門山」部分も3度目の日光インカレの時にクラシック競技のテレインとして使用されたが

山から出て会場の小学校まで1km以上の道走り区間があった。その後、春インカレの内容がミドル&リレーに変わって、

会場までの競技中のアクセスの観点から、テレインとして採用されることはなく、10数年死蔵されたまま今日に至っている。

しかし、前述のように学連発足の端緒を担う、名テレインであることには変わりはない。インカレの形式の変遷が理由で

放置されていることは非常にもったいない。何より、このテレインが一番駅から近い(大桑駅、大谷向駅)。

大桑駅前には、かつてのインカレ会場になった大桑小学校のほか、地区センターや運動公園などあり駐車場も量は十分

ただ、会場＝フィニッシュができないだけのテレインである。

今回の一連の改訂作業、ここ1-2年のオンデマンド提供作業を通して思っていることは、

学連発足当初からある名テレインは維持管理まできちんとやってこそ、責任であり、貢献であると思うに至っている。

地図会計の独立の話もあるが、まだ成約にまで至っていないので、とりあえず単発で「毘沙門山」の地図調査再開、再開を提案する。

地図会計独立の中で進めていただくのが一番良いが、それが成約しなくても事業は進めたい。学連事業としない場合は、かつての

「日光口」でのロングのように、著作権ごとプロ会社マターで行うことを考えている。しかし、自分は「日光口(日光和泉)」も後刻に

学連が買い取ったように、5-7年スパンでみて十分にそれぞれがwin-winの関係に持ち込めるモデルであり、最初から

学連の地図として管理運営していくのが良いと自分では思っている。

以下にその皮算用を示す

【地図作成費用】(仮見積) 120万円(経費込)

【初見大会】

大学大会(大学クラブ独自で山テレイン大会を開けなくなってきたクラブがターゲット)

北東・関東合同のセレクション(ミドルなら単独でOK、隣接の不動(南)と一緒に使えばロングセルもOK

長らく寝ていたテレインなので、公平性は最もある

初見大会のみ地図代を@700-800円位で設定、学連の地図とする場合はその後は他と一緒に@350円

(学連分は@200円)、学連の地図にならない場合は、愛知や静岡、駒ヶ根と同じような値段でずっと運用

仮に初見大会 700円×700枚で49万円

その後他の日光テレインの実績からみて、年間400枚以上は出していける。

その間に一回はモデルイベントでも使われるだろうからそこで+800枚、トータル2800枚(@200円)

5年間で試合形式のイベントも、あと2回程度は確実に行われるだろうから、駅から最も近いテレインで

あることを考え合わせても、どうみても損にならないモデルだと思うし、そもそも学連の資産をどう有効活用していくか

というところから議論を進めて欲しい。

で、議論の内容に関わらず、実際にはもうGOしちゃいます。後追い議論になっても構わない、という姿勢で事業を進めていきます。その理由は、山川のカラダの問題です。

日光に山川記念館を造る構想とも、絡んでくる話です。

実は期限をきめてきっちり調査成果を出すということが、かなり適わなくなってきました。持病の問題です。それでも

この世界に自分がいなきゃ、インカレは成立しないという状態が長く続いていましたから、無理してきましたが

そろそろ本当の終わりが現実になんて近づいてきている、ということを知りたい。具体的にはあと2年後です。

それまでは、なんとかだましだましでも頑張りますが、ゆるーくポチポチ進行でも一歩は一歩で先にすすめば

いいよという考えの元に、日光に長く(まだ仮のものですが)居を構えようと思います。いずれどっかの跡取の無い家で

売りにでている物件を狙っています。そこに、家賃の高い場所で大きく場所を取っている学連資材の保管場所

としても提供することを考えています。

地図会計の問題整理

20万円の執行限度額の問題

学連資産の活用法

今の状態に主に寄与している財産項目は何か？